



# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 2013年度事業と予算が決定

4月27日、2013年度の年次総会が MJET 事務局において開催されました。午後2時、委任状を含む会員15名の出席により、総会は成立し、直ちに議事に移り、2012年度の事業報告と決算報告が承認されました。続いて、2013年度の事業計画が審議されました。主な決議事項は以下のとおりです。

- 今年度の役員体制は藤村会長／事務局長、菊池副会長、神田理事、平湯理事、藤本監事が継続して就任し、岡本氏が大崎氏の後任として理事に就任された。また組織強化企画・広報チームを藤村会長、湯川会員、牧野会員が担当する。
- 「国際協力理解促進事業」は、学生部と協力・協調しながら、まず5、6、7月に「バガン地方の開発・環境・観光」をテーマに勉強会を開催する。
- 「参加型エコツーリズム事業」の本年度のツアーは、35~40名のツアー参加者を予定し、8月24日（日本出発日）から9月1日（帰国日）の旅程で、In Daing村で1,000本の植林を予定する。植林募金に関しては、現地の物価上昇の影響で本年度からは1口（5本）6,000円とする。
- 「農村開発の展開」は In Daing 村の用水タンク増設（費用\$2,910）の協力を予定する。当該費用は2013年度予算計画に組み込み済みである。
- 「広報事業」では、正会員への広報活動の強化を目的として、昨年同様にニューズレターを年3回配信する。より多くの募金獲得をめざし、パンフレットの増刷と MJET ウェブサイト機能をアップグレード（動画、アクセス数のカウント、フェイスブックへのリンク）すると共に、フェイスブックの活用も検討する。
- 「学生部の活動」では、学生会員（特に東京外語大学生）の獲得に努力すると共に、学生部活動の活発化に向け「クラウド・ファンディング」を活用したプロジェクトを立ち上げる。
- 図書館建設計画が廃止されたことにより、2013年度予算の MJET 事業本体の経常収入に、図書館建設特別会計繰越額23万円を繰り入れる。この結果、総収入3,340,546円、総支出2,822,000円、次期繰り越し518,546円の予算が承認された。

## 過去最多の植林募金を確保

今年の植林募金は過去最多となりました。今回、新たに創設された『恩師の森』として、(社)海外コンサルティング企業協会の専務理事として長年活躍された、故山口仁秋さんのミャンマー青少年への貢献を記念して、「山口仁秋記念の森」募金が募集され、多数の応募を得て、1,150本に達しました。「2人の森」、「家族の森」の合計は、220本、個人による植林が190本。これらの合計は1,560本になりました、これは過去8年間の最多の植林募金になりました。

山口貞江夫人からは500本(50万円)の植林募金の寄贈に加えて、「山口仁秋奨学金」として、MJETに50万円の寄贈がありました。新たな奨学金のための基金として、ミャンマー青少年の人材育成のために活用したいと思います。

## 31名が今年の植林ツアーに参加！

8月24日から9月1日まで実施された、今年の植林ツアーには、学生23名と社会人8名、計31名が参加しました。（詳しくは次号のニューズレターとウェブ・サイトで報告いたします。）参加者は以下の通りです。

<u>学生</u>	
同志社大学	19
東京外国語大学	1
慶応大学	1
拓殖大学	1
玉川大学	1
小計	23名
<u>社会人</u>	
MJET 会員	5
非会員	3
小計	8名

植林ツアーに先立ち、同志社大学の岡本教授のゼミ学生一行20名は、8月23、24日に National Youth Resources Development Degree College と JETRO、ミンガラドン日系企業を訪問しました。（詳細は次号を参照）



# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 初夏の勉強会を開催

MJETの初夏の勉強会は、以下のように3回開催されました。

### 第一回：6月9日、於MJET事務局（参加8名）

課題：バガン地方の開発と課題

講師：藤本耕士、拓殖大学教授、MJET 監事

藤本教授は、『植林を行ったイン・ダイン村は、農業を基本とした自給自足経済であるが、今後、開発の波が押し寄せ、農産物の多様化、電気通信・サービスなどのインフラの整備・改善が見られるようになるであろう。しかし、ある程度の規模の経済が拡大しても、村の人口増大に対応した雇用を創出出来ずに村の人口は、都市に移動するようになる。



大事なことは、村の発展がミャンマーの価値を最大限に尊重したものでなければならぬ』と述べられました。

### 第二回：6月22日、MJET事務局（参加5名）

課題：バガン地方の環境問題

講師：神田道男、MJET 理事

神田講師は『バガン地方は、年間降雨量が500～700ミリと少ない乾燥地であるため、水を効率的、効果的に活用するかが鍵となっていること。そのためには、植林活動による地域の緑化は重要であるが、土地が肥沃でないため、村人の相当の努力が不可欠



なこと、およびイラワジ川からの水を引いた小規模灌漑も有益であろう』と解説されました。

### 第三回：7月20日、MJET事務局（参加10名）

課題：バガンにおける観光客増大に対処したエコツーリズムのあり方

講師：中嶋真美、玉川大学准教授

中嶋先生は、『ミャンマー政府は、今後、観光客を増大させる計画であるが、資金・インフラ・人材不足・知識や教育機会の不足のために、急激な観光客増加には備えられないであろう。したがって、持続可能なエコツーリズムを目指すと共に、責任あるツーリズムを目指した、貧困者に被益するツーリズム、インパクトの少ないツーリズム、フェアトレード・ツーリズムと言った形態のツーリズムを目指すべきであろう』との示唆を述べられました。

### ■ 求める観光の姿

“単に「持続可能な」だけではない観光を”

- Ecotourism
- Pro-poor Tourism
- Low Impact Tourism
- Fair-trade Tourism

供給者・  
消費者の協働

「Responsible Tourism」の実現へ

26

## 植林ツアーのための事前勉強会

7月26日、同志社大学で最初の植林ツアー事前勉強会を開催しました。





mjet

# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 学生部の活動—1

プロジェクトに向けてミーティングを行いました！

### 第1回 5月18日(土) 18:00~ 参加者5名 「プロジェクトのテーマ決め」

学生部のメンバーがミャンマーについて興味があるテーマをいくつか出し、以下のようにまとめました！

- ソフト面・文化  
タナカとメイクの位置づけ/ 民主化後の服装の変化/ 世界でも需要がある特産品(漆器)/ 韓流が流行る理由/ エンタメ業界
- 生活  
農村の人々の暮らし、食生活、飲食店
- メディア  
SNS、メディア、携帯電話の普及率
- 課題(民主化、経済発展後に顕著)  
ごみの分別の仕方、ごみ処理にかかるコスト、交通事故の量

興味があることを自由にポストイットに書き出していくと、想像以上に興味分野が広いことに気付いた。ほかの人の興味分野を聞くことで、新たに興味をもったテーマもあった。

ミーティングの様子



## 学生部の活動—2

### 第2回 5月26日(日) 18:00~ 参加者3名 「リサーチ内容の共有」

興味分野についてリサーチしたものを共有しました！

- 服装  
民主化とメディアの緩和で人々は自由なファッションを楽しめるようになった。音楽番組やファッション雑誌が増え、流行の源になっている。雑誌は検閲が緩和された。外国企業の進出や外国人旅行者の増加で、市民が外国文化に触れる機会が増えた。ショッピングモールではファッションナブルな洋服が売られ、化粧品は美白化粧品が売れている。一方、伝統衣装であるロンジーも刺繍や絵付け技術の進歩により新しいデザインが生みだされ、結婚式でも好評である。
- 特産品(漆器)  
ミャンマーの漆器産業は、バガンが生産の90%を占めている。漆器の種類は無地・掘り込み・金箔細工が主流である。国内では無地漆器が多く使われ、掘り込み漆器は海外向けである。漆器を専門に扱う国内企業もある。漆器生産の課題は生産に約3か月かかること、原材料の生漆が手に入れにくいことが挙げられる。
- メディア  
マスメディアは良い面でも悪い面でも国民に多大な影響を及ぼす。アフリカのルワンダ内戦では、ラジオがきっかけでツチ族とフツ族の間で争いが起こった。マスメディアは政府の指摘・監視の役割を担うべきで、ミャンマーでもマスメディアの使われ方が重要である。





# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## ミャンマー便りー1

7月13日

学生部 古城真理子

みなさまいつもお世話になっております。MJET 学生部の古城真理子と申します。現在私は1年間のヤンゴン外国語大学での留学生活を楽しんでおります。そこで今回はその一部をご紹介させていただきたいと思っております。

ヤンゴン外国語大学 (YUFL) はアメリカ大使館のすぐそば、University Avenue St.にあり、周りはとても静かな一等地です。私の通うミャンマー語学科の他、日本語学科をはじめとして、全9カ国語が開講されています。ミャンマー語学科は外国人のみで、授業時間は朝9時～午後2時半まで。アジア各国から生徒が集まり、日々勉強しています。他学科は現地の学生を対象としたものです。そして、日本語学科のミャンマー人学生の中には驚く程日本語が上手な学生もおり、彼らとミャンマー語や日本語について話すことは学校生活の楽しみの一つでもあります。



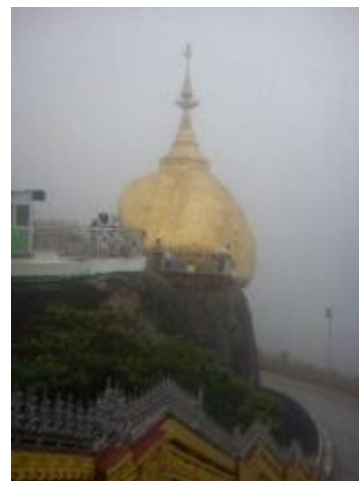
このような教科書を使ってミャンマー語を勉強します。ちなみに背景の机はこちらで買った子供用のもので、ミャンマー語の「あいうえお」が書かれています。



授業風景

勉強の合間に催しも色々開催されます。この写真は日本語学科の学生たちによる座談会のようすで、他にスポーツ大会、歌唱大会など様々なものが催されます。

また、土日は学校がないので時には旅行に出かけます。ミャンマー人は敬虔な仏教徒が多く、誕生日にはパゴダにお参りに行く習慣もあるそうです。そこで、私自身の誕生日が近づく6月、土日を利用してミャンマーモン州にある「落ちそうで落ちない、ゴールデンロックの名で知られる、チャイティーヨーパゴダ」に参拝してまいりました。



チャイティーヨーパゴダ

名で知られる、チャイティーヨーパゴダ」に参拝してまいりました。

当日は霧が深く、風も強く吹くコンディションの良くない日ではありましたが、パゴダの荘厳な姿を見て心洗われる気持ちになりました。

ヤンゴンから車をチャーターすれば夜出発の1泊2日程で行くことも可能です。